

令和2年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
使命1 横浜市北部地域の子どもや高齢者、障がい者、外国人、様々な経済事情にある方、性別にかかわらず幅広い属性の方へ、社会的包摂の視点を踏まえ、美術を中心とした文化に触れる機会を提供し、豊かな感性を育むとともに、多様な価値観を受け入れる文化の醸成に貢献する。	1 高齢者が文化芸術活動に参加し担い手となる取り組み	<input type="checkbox"/> アンケート及びヒアリング等による高齢者(65歳以上)へのニーズ調査の実施	実施	見送り	・感染症拡大防止の観点から手法の見直しが必要となり、今年度はその準備期間とした。	【成果】 新型コロナウイルス感染症の影響下、対策を取り手法を見直したうえで活動を継続することに注力した結果、一部事業を除き大半の事業を実施することができた。 1.2については【課題】に記載。 3 幅広い市民の皆様「やってみたい！」を応援 <input type="checkbox"/> 「市民のためのプログラム」使命2に掲載 <input type="checkbox"/> あざみ野カレッジ文化芸術部門 定員減を主とした感染症対策を取り、計画通り実施。コロナ禍ならではのテーマや、ヨコハマトリエンナーレ、コンテナボラリー展など展覧会とリンクしたアーティストからの提起がSNSでも話題になり、参加者からの評価はアンケートで顧客満足度平均値4.69となった。 4 アートで子どもの情操や共感能力を育てる <input type="checkbox"/> こどもぎやらりい2020代替企画 7-8月に実施したファミリー向けワークショップ「カラーテープでおえかきしよう」は、その後の各事業における感染防止策の基本態勢を整備しつつ、子どもたちに活動の場を提供し、家族の交流を深めるという事業をいち早く実現することとなり、他館からも注目された。日々の展示室の変化をホームページ上に公開したり、記録動画を発表するなど、新しい試みにより発信力を高めることもできた。 <input type="checkbox"/> 「親子のフリーゾーン」 大勢が予約なしに参加できることが特徴だった「親子のフリーゾーン」は実施形態を大幅に見直し、事前予約・定員制での実施に移行。参加者数が減ったものの満足度はアンケート平均値4.98と非常に高く、深い造形体験を提供することができている。 <input type="checkbox"/> 子ども向け造形講座 <input type="checkbox"/> 横浜市芸術文化教育プラットフォーム事業 基本的な感染症対策に加え、道具の共有や接触を抑制し、定員を減らしてほぼ予定通り実施できた。 <input type="checkbox"/> クリスマス ジュニアコーラス ワークショップ 合唱の感染リスクが高いことを鑑み、中止とした。 5 障がいのある方の対象とした事業 <input type="checkbox"/> 「親子で造形ビクニック」 「親子でフリーゾーン」と同様な対策を取り、9月以降に再開。 <input type="checkbox"/> 「学校利用」 小学校側の判断による取り止めもあり、実施回数は計画未達成となったが、感染対策を取りながら個別支援学級の児童へ造形体験の場を提供した。 6 施設を訪れたすべての方々にアートの息吹を <input type="checkbox"/> 「ショーケースギャラリー」 <input type="checkbox"/> 「フェローアートギャラリー」 臨時休館により会期を調整のうえ、計画通り実施。特に「ショーケースギャラリー」では、展示作業風景等を交えた作家のインタビューを収録した映像を制作し公開。来館できない方へも作品・作家を紹介する試みを行った。 <input type="checkbox"/> 「ロビーコンサート」 臨時休館およびその後の感染状況により、出演者との調整を経て9月以降の開催とした。特に、9-10月は演奏者のいないオーディオコンサートでイベントを再開。客席設置方法の工夫や消毒、検温の徹底により計画通りの回数を実施することができた。 【課題】 1 高齢者が文化芸術活動に参加し担い手となる取り組み及び 2 在住外国人の方々が来館しやすい仕組みを充実 感染症の影響が長引くことが想定され、日常の生活自体が制限されるなかで同事業のあり方を再考、手法を見直して取り組む必要がある。	
	2 在住外国人の方々が来館しやすい仕組みを充実	■英語ウェブサイトでの情報発信多言語化検討、外国人来訪者への多言語対応 ■北部地域の国際交流ラウンジとの連携を相談 <input type="checkbox"/> 「親子のフリーゾーン」のやさしい日本語や英文による情報提供	随時	随時	見送り		・施設への来館喚起の方向ではなく、コレクション・データベースの英語版公開(3/31)により情報提供の拡大を図った。 ・感染症の影響により、具体的な連携構築は見送りとした。 ・「親子のフリーゾーン」の感染症対策の再開を優先とし、英文パンフレット作成は次年度以降に見送り。
	3 幅広い市民の皆様「やってみたい！」を応援 ※「市民のためのプログラム」は使命2に掲載	あざみ野カレッジ「文化芸術部門」 <input type="checkbox"/> アート関連 ※うち1回は横浜トリエンナーレ連携企画 <input type="checkbox"/> 年間参加者数	年4回	延べ160名以上	4回実施		・現代美術探求ラボvol.8「芸術祭をつくる」(9/5) ・ヨコハマトリエンナーレ連携企画「見えにくい、聞こえにくい、たしかかな経験」(9/19) ・「疫病と美術」(9/21) ・コンテナボラリー展vol.11連携「身体とことばの不安定さについて—関川航平の方法」(10/24)
	4 アートで子どもの情操や共感能力を育てる	企画展「こどもぎやらりい2020」 <input type="checkbox"/> 来場者数 <input type="checkbox"/> 関連事業 展覧会でのワークショップ 親子のフリーゾーン <input type="checkbox"/> 年間延べ参加者数 <input type="checkbox"/> 月3回 子どものためのプログラム <input type="checkbox"/> 対象年齢に応じた多彩なワークショップ <input type="checkbox"/> 延べ参加者数 <input type="checkbox"/> 横浜市芸術文化教育プラットフォーム年間実施校数 あざみ野クリスマス ジュニアコーラスワークショップ <input type="checkbox"/> 1コース実施回数 <input type="checkbox"/> 参加児童数	4,000名以上 1回以上 8,000名以上 年間36回 年12講座 延べ240名以上 4校以上	代替ワークショップ: 103名 成果展観覧: 76名 合計: 180名 1回実施 71組226名 16回 (モニター含む) 408名 4校実施	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、施設への来館が集中する展覧会は中止し、代替企画を実施。 ・あざみ野ファミリーワークショップ「カラーテープでおえかきしよう」16日間(7/31,8/1,2,8,9,10) 対象者: 幼児・児童を含む家族 参加者数: 各日5組計30組103名 同WS成果展として作品を公開(8/15,16): 来場76名 制作過程及び記録動画の収録及びHP上での公開 感染症対策のため、従来スキームでの開催は中止し、新たに「予約制だよ! あざみ野親子のフリーゾーン」(1日5組、1組5名上限、事前予約制)として実施 計16回(含: モニター開催) 参加者数: 計71組、226名 (12/2,13,16,1/11,20,27,2/10,21,24,3/10,21,24) 5月-7月予定事業は、一部を除いて8月以降に延期。参加者数を絞り、感染症対策を図った上で8月以降実施再開。 ・「油絵を描こう」(8/8,15,16,29) ・「つくってあそぼう! 釣りゲーム」(8/15,16) ・「うごくカラフルな動物をつくろう」(8/23) ・「親子でえのぐであそぼう」(9/13) ・「親子でねんどであそぼう」(9/22) ・「見て、さわって、描く」(10/3) ・「アトリエのペットショップ」(10/25) ・「焼き物をつくろう」(11/15) ・「クリスマス飾りをつくろう」(12/6) ・「かみであそぼう」(12/13) ・「おもしろい顔をつくろう」(1/11) ・「紙でつくろう! パタパタ鳥」(2/21) 年12講座実施 参加者408名 ※一部、参加対象を親子に変更(参加数: 保護者の数を含む) 中止事業: ・「すてきな車をつくろう」(4/29) ・「リサイクルアートに挑戦」(7/18,19) ・「ガラスのトンボ玉に挑戦」(3/21) ①すみれが丘小学校(5年生2クラス)/金属加工 ※資材協力: 古河電工パワーステムズ株式会社(9/7, 14, 28) ②荏田小学校(3年生2クラス): 段ボールアート(12/17,18) ③折本小学校(個別支援学級全学年): ダンス(1/29,26,29) ④新羽小学校(個別支援学級2クラス): ステロール&段ボール(1/15,16,26) 参加者: 延べ359名		

令和2年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
使命1 横浜市北部地域の子どもや高齢者、障がい者、外国人、様々な経済事情にある方、性別にかかわらず幅広い属性の方へ、社会的包摂の視点を踏まえ、美術を中心とした文化に触れる機会を提供し、豊かな感性を育むとともに、多様な価値観を受け入れる文化の醸成に貢献する。	5 障がいのある方を対象とした事業	芸術文化面からの学校支援				(評価は前ページに記載)	(評価は前ページに記載)	
		□親子で造形ピクニック	月1回	7回実施	—			9月以降感染症対策を図り、7回実施 参加者数:67名 (9/26、10/17、11/7、12/5、1/16、2/13、3/13)
		□学校利用:造形活動による学校支援	年10回程度	5校6回実施	—			9月以降に感染症対策を図り5校6回実施 参加者数:104名 北山田小学校個別支援学級(9/8)、あざみ野第一小学校個別支援学級(11/10)、山内小学校個別支援学級①(11/24)、大豆戸小学校個別支援学級(12/8)、山内小学校個別支援学級②(12/15)、上山小学校個別支援学級(12/22)
		□アートなピクニックー視覚に障がいのある人とな い人がともに楽しむ鑑賞会ー	企画展開催時に年1回以 上	中止	—	参加者同士の近距離の会話が前提となるため中止		
	6 施設を訪れたすべての方々にアートの息吹を ※企画展「あざみ野コンテンポラリー」 「あざみ野フォト・アニュアル」は使命2に記載	フリースペースでの小展示					(評価は前ページに記載)	(評価は前ページに記載)
		□ショーケースギャラリー (若手アーティスト作品展示)	年4回	4回実施	B	□ショーケースギャラリー ・宮内由梨展(5/7-7/7) ※臨時休館のため公開は6/1~ ・谷本真理展(7/11-9/20) ・大野陽生展(9/26-12/13) ・安部寿紗展(1/9-3/21)		
		□フェローアートギャラリー (障がいのあるアーティスト紹介)	年4回	4回実施	B	□フェローアートギャラリー ・vol.38 井口直人 展(5/7-7/26) ※臨時休館のため公開は6/1~ ・vol.39 渡邊富弘 展(7/29-10/25) ・vol.40 藤本正人 展(10/28-1/24) ・vol.41 澤井玲衣子 展(1/27-4/25)		
		ロビーコンサート(エントランス、センター北共催)						
		□年間開催回数	年12回以上	13回 来場950名	B	年13回、来場者数延べ950名 ※男女共同参画センター横浜北と共催 (9/27、10/11、25、11/8、22、12/13、20、1/10、24、2/14、28、3/7、14)		

令和2年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
<p>使命2</p> <p>市内外に向けて、カメラ・写真コレクションを活かした映像分野の拠点となるとともに、現代のアーティストの発信拠点となる。また、多様な美術分野(新旧含めた多様な時代、平面・立体、版画や陶芸等の様々な技法等)への様々なアプローチを用意することで、美術に対する関心を喚起する機会を創出し、北部地域の文化活動人口(文化活動支援者も含む)の増加に貢献する。</p>	<p>1 横浜市所蔵カメラ・写真コレクションの活用</p>	企画展「あざみ野フォト・アニュアル」			あざみ野フォト・アニュアル(1/23-2/14) 企画展「とどまってみるもの」 横浜市カメラ写真コレクション展「写真とプリント」 来場者数:2,990名 顧客満足度:4.51(5点満点) 【関連事業】 企画展・クロストーク#1(1/23) ・クロストーク#2(1/30) コレクション展・コロタイプ・ワークショップ(1/31) ・あざみ野コレッジ「写真と版」(2/11)		<p>【成果】</p> <p>1 横浜市所蔵カメラ・写真コレクションの活用</p> <p>□「あざみ野フォト・アニュアル」 企画展「とどまってみるもの」では、コロナ禍で活動に制限が生じたなかで作品を制作するデジタルネイティブ世代の写真家7名を取り上げ、従来の「写真」という概念を覆す展示が高評価を得た。 コレクション展「写真とプリント」では、コレクション約200点を活用して、19~20世紀の様々な技法で制作された写真、関連の深いカメラや資料を通して、プリントと写真表現の関係性を探る展示を実施。 会期が感染症拡大による緊急事態宣言期間中に当たったが、趣向の異なる展示の組合せも好評を得た。SNSでは作家やキュレーターを含めてさかんに発信がされ、期間短縮にも関わらず来場者が3,000名弱を数え、コロナ禍でも十分な成果を挙げることができた。</p> <p>□映像関係ワークショップ 写真や映像分野で、主催展覧会にひきつけたテーマによるプログラムを開催し、参加者に体験を深めていただくことができた。 また平成25年から継続している教師向けのアニメーション制作ワークショップの成果展として、今年度3年目を迎えた「横浜市立中学アニメーションフェスティバル」は、会場を市庁舎アトリウムへ移し、より広く展開していく素地が固まりつつある。</p> <p>■カメラ・写真コレクション保存・研究・Web公開 日常的な維持管理と調査研究に加え、データベースの英語版を制作・公開するなどコレクションの存在周知に取り組んだ。 「あざみ野フォト・アニュアル コレクション展」では、初出展資料が89点に上るなど、学芸員の地道な調査研究が展覧会事業にも活かされた。 コレクションの紹介展示「Gallery in the Lobby」は臨時休館のため3回の実施となったが、解説画像制作で城西国際大学メディア学部と連携するなど、コレクションの普及に工夫を行っている。</p> <p>2 現代アーティストの発信拠点として</p> <p>□「あざみ野コンテンポラリーVol.11 関川航平 今日 Let's call it a day」 作品を展示するのではなく、作家が日々パフォーマンスそのものを見せるというこれまでにない展覧会。名実ともに関川航平の代表作のひとつとなる展示となり、また来場者の満足度も高かった。</p> <p>□アーティストインタビューの活用・発信 これまで展示のみだった「ショーケースギャラリー」において、作家インタビュー映像を制作、動画を配信(※使命1再掲)。 作品の制作背景や実際の準備風景などを紹介することで、作家自身に対する関心を喚起し、展示PRのみならず作家の活動支援の一助としても機能した。 館ホームページのトップからYouTube「artazamino 動画チャンネル」へのアクセスをわかりやすく改善し、訴求力を高める工夫をした。</p> <p>3 市民の皆さんが主体となって文化芸術活動に関わる取組</p> <p>□「市民のためのプログラム」 感染症対策として、換気が制限される「ヌードクロッキー」を中止し「着衣クロッキー」に切替え。各分野の講座では、接触を避けづらいカメラ講座を中止。それぞれこまめなコース設定や定員減を行ったため、実際の回数や参加者数は計画を下回ったが、コロナ禍でも活動の場を継続して提供することができた。顧客満足度平均値も計画を上回った。</p> <p>【課題】</p> <p>現代アートおよびカメラ・写真を両軸とした事業展開が一定の成果を挙げていると考えるが、「近所にこのような展示施設があるのを知らなかった」「(カメラ・写真コレクションに関して)貴重なものなのでもっと多くの人に見てもらいたい」といった感想をいただくこともあり、使命1・3・4の取組みとあわせて更なる地域への浸透が必要である。コロナ禍で積極的な来館を喚起しにくい状況が続くと思われるが、様々な手法を活用してさらに活動の注目度向上に努めたい。</p>
		□来場者数	3,500人以上	2,990名 ※関連イベント含む	-		
		□平均満足度	4.6以上	4.51	B		
		映像関係ワークショップ					
		□一般対象(「市民のためのプログラム」内)	年1回	2回実施	A	□映像関係ワークショップ 例年実施していた「はじめてのデジタル一眼」講座は、機材操作の指導における対人接触が避けられないため中止。 代替として以下講座を「あざみ野フォト・アニュアル」関連事業として実施。※再掲 ・コロタイプ・ワークショップ(1/31) ・あざみ野コレッジ「写真と版」(2/11)	
		□子ども対象(「子どものためのプログラム」内)	年1回	中止	-	□子ども対象事業 「子どものためのプログラム」及び「近隣小学校への出張ワークショップ」双方ともに中止。	
		□子ども対象「小学校出張写真ワークショップ」	年1コース	中止	-		
		□教師のためのプログラム	年1回	中止	-	□教師のためのプログラム:横浜市中学校美術科研究部会からの申し出により中止。	
	□教師のためのワークショップ成果展「横浜市中学アニメフェス」	年1回	実施	B	□横浜市中学校アニメーションフェスティバル(1/16.2/20)へ実施協力 会場:横浜市役所アトリウム		
	■カメラ・写真コレクション保存・研究・Web公開	実施	実施	-	■カメラ・写真コレクション保存・研究・Web公開 ・収蔵作品の状態確認・調査・整備 ・データベース整備 ・英語版データベースを新設し公開 ・収蔵環境の調査を実施 ・外部からの貸出、熟慮依頼に対して柔軟に対応 ・情報誌アートあざみ野「ギャラリー オン ザ マガジン」(コレクション紹介記事掲載):年3回掲載 ・東京都写真美術館、日本カメラ博物館、横浜美術館などの専門機関と日常的に連携し、コレクション管理等の情報共有。		
	□ギャラリー イン ザ ロビー(テーマ別コレクション紹介)	年4回	3回実施	-	□Gallery in the Lobby(小展示):3回(1回目が臨時休館にあたってため未実施) ・映画の中のカメラ(10/3-10/25) ・フィルムカメラのはじまり(10/28-11/15) ・ケースとアルバム(2/27-3/21)		
	<p>2 現代アーティストの発信拠点として</p>	企画展「あざみ野コンテンポラリー」				□あざみ野コンテンポラリーVol.11 「関川航平 今日 Let's call it a day」(10/10-11/1) 来場者1,183名 平均満足度4.65(5点満点) 本展では、関川が22日の会期中毎日、展示室に滞在して1日1枚の壁の上でパフォーマンスを行い、1日の終わりにその壁を持ち上げてひっくり返し、痕跡を二度と目にできないものとする一連の行為を22日間欠かさずことなく実施。また、特設サイトでは作家自身が毎日パフォーマンスと円環するような言葉を綴った。 【関連企画】 ・あざみ野コレッジ連携「身体とことばの不安定さについて—関川航平の方法」(10/24) ・セッション「風おる、もう一個風おる、鳥おる」(10/28) ・対談 関川航平×山下澄人(10/31)	
		□来場者数	3,000人以上	1,183名 ※関連イベント含む	-		
		□平均満足度	4.6以上	4.65	B		
		■アーティストインタビューの活用・発信	随時	5回	-	ショーケースギャラリー(使命1再掲)において、展示風景や作家インタビューを収録し、年間4本を公開。 ・宮内由梨展・谷本真理展・大野陽生展・安部寿紗展	
<p>3 市民の皆さんが主体となって文化芸術活動に関わる取組(使命1:幅広い市民の皆様「やってみよう!」を応援)</p>	市民のためのプログラム				□市民のためのプログラム 感染症状況に即して一部事業を中止し、対策を講じた上で新規事業を実施。 年11コース開催 年間参加者数:延べ264人(3/31現在) 顧客満足度:年間平均4.74(5点満点)		
	□年間開催回数	10コース以上	11コース実施	B			
	□オープンスタジオ「ヌードクロッキー」(5コース各4回)	5コース 計20回	8コース 16回	-	・オープンスタジオ「着衣クロッキー」年間8コース(1コース2回):計16回 (緊急事態宣言中の夜間コース1回のみ、令和3年度4/7に延期実施) ・絵具ラボ(7/11)計1回 ・金継ぎ入門(10/16-11/20)計4回 ・はじめての透明水彩(11/16-12/21)計5回		
	□写真・水彩等各分野の講座	5コース	3コース 10回	-			
	□年間延べ参加者数	800名以上	延べ262名	-			
□平均満足度	4.6以上	年間平均 4.71	B	【中止事業】 ・オープンスタジオ「ヌードクロッキー」5コース20回 ・やさしく、たのしいデジタル一眼カメラ(4/23-6/11)計5回			

令和2年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
使命3 地域コミュニティが抱える課題に対して、文化芸術を通じたアプローチを行うことで、市民の皆さんがこうした課題に気づき、考えを深める契機を創出する。	1 文化芸術を媒介として、分野を越えた協働により地域コミュニティの課題に向き合います	■行政や教育機関、福祉・医療施設、自治会やシニアクラブ、区民利用施設等に対し、文化芸術面からのアプローチを模索し、他の領域と創造性を活かして協働する中から、市民が自ら課題に向き合えるきっかけを作る	実施	実施	ー	・山内地区センター、山内図書館へ構想を共有し、相互協力の関係を構築。 ・あざみ野商店会等で構成する「やさしい街あざみ野実行委員会」にアートフォーラムあざみ野として参加、今後具体的な連携を模索。	【成果】 1 文化芸術を媒介として、分野を越えた協働により地域コミュニティの課題に向き合います	
	2 市民が自ら課題に気づき考えを深める契機を創出します	市民が自ら課題に気づき考えを深める契機を創出します	□企画展「あざみ野コンテンポラリー」「あざみ野フォトアニュアル」出展作家によるアーティストトークや対談	年2回以上	5回実施	A	□企画展「あざみ野コンテンポラリー」「あざみ野フォトアニュアル」出展作家によるアーティストトークや対談イベントを実施 「あざみ野コンテンポラリー」※使命2再掲 ・身体とことばの不安定さについて—関川航平の方法(10/24) ・セッション「風おる、もう一個風おる、鳥おる」(10/28) ・対談 関川航平×山下澄人(10/31) 「あざみ野フォト・アニュアル」 ・クロストーク#1(1/23) ・クロストーク#2(1/30) 上記に加え、インタビュー動画や記録映像のWeb配信も実施	地域コミュニティの課題に対する市民の皆さんの気づきの促進に対し、文化芸術でどのように関わっていくことができるかを探る端緒として、「あざみ野河津桜坂文化圏」構想をひとつの足がかりにしながら、近隣公共施設にアプローチ、提案をスタートした。また連携先として可能性のあるグループに参画し、地域の方々との繋がりを模索。
			□「親子のフリーゾーン」終了後、30分程度の懇談会の実施	年6回	4回実施	ー	代替案検討に伴い、モニター参加者を募集し、親子、子ども向け事業のニーズや運営形態に関する調査を実施。計4回 新規事業企画立案の参考として活用(10/14,28,11/4,15)	2 市民が自ら課題に気づき考えを深める契機を創出します □アーティストトークや対談イベント実施 作家のトークや各イベント、その問題意識を通して、「今という時代に向き合う」ことの意味を感じていただく機会を設けた。
			□各種ワークショップ、講座における最終回終了後に時間を設け、参加者へのグループヒアリングの実施	月1回(年12回)	見送り	ー	感染症の影響により実施を見送り	□親子のフリーゾーン終了後懇談会 手法をWebアンケートによるヒアリングに変更し、コロナ禍での子ども向け事業のニーズや運営形態に関する調査を実施。
			■「あざみ野カレッジ」終了後、「生涯学習」に対する意見交換会の実施	実施	見送り	ー	感染症の影響により実施を見送り	□あざみ野フェローマルシェ 館全体の来館者が半減する中ではあったが、障がい者団体に活動・交流の場を地道に提供し、また来場者に各団体の活動や産品を紹介することができた。
			□アートサポーターとの協働ワークショップ	年2回以上	見送り	ー	感染症の影響により実施を見送り ※今後の参加の在り方や要望をリサーチするため、登録者全員にアンケート調査を実施(3月)	3 センター横浜北との連携をさらに充実させます
			□フェローアートギャラリー(小展示)他施設へのアウトリーチ展示	年1回以上	見送り	ー	感染症の影響により実施を見送り	ジェンダーや子育てという男女共同参画テーマとのコラボレーションを模索するなかで「ジェンダー×アート」イベントを共催で実施。令和元年度に実施を延期した「マイホームの夢とキッチン—台所は女の城か?」は引き続き実施を見合わせた。
	□あざみ野フェローマルシェ 障がいのある人たちの手掛けた物品などを発表・販売する場を提供・支援	年5回以上	4回実施	ー	□あざみ野フェローマルシェ(名称変更) 感染症の影響により、7月19日を初回とし4回実施。(7/19,8/5,10/18,11/21) 来場者数:延べ3,892名 参加団体数:23団体	【課題】 感染症の影響とその対応に追われたことと、実際的な交流が制限される状況下で見送りとせざるをえない指標が多く出た。次年度以降、コロナ禍でも安全に行える手法を構築しつつ、各種リサーチの機会を検討していきたい。		
	3 センター横浜北との連携をさらに充実させます	あざみ野サロン				□あざみ野サロン 4回実施(自主2回、共催2回) ・映画「火火(ひび)」(10/25)上映 ※センター横浜北企画 ・あざみ野寄席「新春!金原亭馬玉独演会」(1/16) ・あざみ野アート&シネマVol.6 ドキュメンタリー映画「うたのはじまり」(絵字幕版)上映会(2/13) ・「ジェンダー×アート」〜アートを通して観る多様な社会〜(リモート開催)※センター横浜北企画	【成果】 1 地域の資源を発掘し、市民とつながります	
	使命4 文化施設として求められる専門性と、地域施設として求められる役割をふまえ、かつ、地域の様々な資源を有機的に結び付け、地域コミュニティのベースとなる文化的 commons の形成に貢献する。	1 地域の資源を発掘し、市民とつながります	あざみ野カレッジ「地域資源部門」				□あざみ野カレッジ「地域資源部門」:2回開催 年間延63名(各回定員を30名程度に縮小)	□「あざみ野カレッジ」地域資源部門 感染症の影響のため開催は2回にとどまったが、第3期指定管理期に培ったネットワークによる地域企業との連携講座、またコレクション紹介の講座を実施した。
□地元の資源を題材とする講座			年3回	2回実施	ー	・「ハイエンド・オーディオ」の世界(10/11) 協力:アキュフェーズ株式会社(青葉区)	2 地域の様々な担い手とつながる機会を作ります	
□地元大学等連携事業・共同ワークショップ			年1コース	見送り	ー	・あざみ野フォト・アニュアル関連「写真と版」(2/11) 横浜市所蔵カメラ+写真コレクション紹介 □地元大学等連携事業・共同ワークショップ 次年度以降に見送り。	□アートプラザのお弁当屋さん コロナ禍で来館者が半減する中ではあったが、地産地消で地元へ貢献、また起業している店舗を支援し、来館者サービスにも繋がった。	
2 地域の様々な担い手とつながる機会を作ります		□アートプラザのお弁当屋さん		随時	実施	ー	臨時休館中は中止し、7月以降、屋外飲食の対応と併せて再開。出店者と調整し27回実施。	3 北部地域の文化施設全体が、文化的 commons の形成に貢献できるよう協働します 感染症の影響により、検討会議は実施せず。
		□アートフォーラムフェスティバル(センター北共催)		年1回	中止	ー	来館・混雑が前提となるため感染症拡大防止の観点から中止	
		青葉区主催事業への共催					□青葉区主催事業への共催(実行委員会参加等)	
		■あおば美術公募展 協力	実施	中止	ー	・あおば美術公募展:中止 ・フォトジェニック青葉:実施なし ・青葉区民芸術祭:中止		
3 北部地域の文化施設全体が、文化的 commons の形成に貢献できるよう協働します		■青葉区民芸術祭 協力	実施	中止	ー		4 新たなつながりと活力を生む、「あざみ野河津桜坂文化圏(仮称)」創出 ※使命3-1 再掲	
		■フォトジェニック青葉への協力	実施	未実施	ー			
4 新たなつながりと活力を生む、「あざみ野河津桜坂文化圏(仮称)」創出		□子ども向けワークショップの地元企業との連携(「あざみ野子どもぎやらい」内)		年1回	1回実施	B	横浜市芸術文化プラットフォーム事業内で実施 古河電工パワーシステムズ株式会社からの無償提供資材を使用し金属加工ワークショップを実施(すみれが丘小学校 9/7・14・28)	【課題】 感染症の影響により、年度の大半はその対策に追われ、新たなネットワークの開拓や連携構築には至らなかった。「地元大学等連携事業・共同ワークショップ」や「文化施設相互ピアレビュー」等、第4期指定管理期間の達成を目指しての活動開始は次年度からとなる。
	■東急田園都市線沿線「文化施設」相互ピアレビュー 協定実施に向け3館による検討会議実施		随時	見送り	ー	次年度以降に見送り		
	■文化圏形成に向けた各施設への構想打診及び集合会議の開催		随時	実施	ー	近隣にある山内地区センター、山内図書館に構想を共有。次年度以降具体的な連携を模索。※使命3再掲		

令和2年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
使命5 利用者本位の運営を行うとともに、文化施設としての専門性を発揮し、北部地域の市民の皆さんに親しまれる施設となる。	1 利用者ニーズの把握	■アンケート実施およびスタッフ回覧 対象:施設利用者、来場者	随時	実施	—	□施設利用者アンケート 展示室:全22団体より回答 顧客満足度4.73(5点満点) アトリエ:回収率69% 顧客満足度 4.74(5点満点)	【成果】 1~4 施設利用対応については、感染症の影響や臨時休館による利用中止・料金返還等の対応に追われるなか、自主事業の利用枠を調整して貸出に回し、市民利用が少しでも成立するよう努めた。それにより3団体ではあったが、利用が成立し展覧会が開催されるという結果になった。 施設利用時の感染症対策について、利用者と事前に打合せを行い、飛沫防止スクリーン・手指消毒液・除菌シートなどを無償提供した。 ■利用中止や、自主事業利用枠の調整による空室を即時HPに公表するとともに、SNS等では横浜市民以外でも利用できる施設であることなどを広報。 □施設利用率 ・展示室 全体:46%(展示室1:50%、展示室2:42%) ・アトリエ 全体:36%(日単位:64%、時間帯単位:36%) ■利用まで3か月を切る展示室空室については、週単位でなく日単位で貸出を実施。 ■感染症の影響により、チラシ配布や「ギャラリーお試し利用事業」は実施を見合わせた。 【課題】 例年稼働率100%で推移していた展示室の利用率が、感染症の影響により50%を下回る結果となった。長引くコロナ禍で次年度でも同様の利用率低下は避けられないと思われる。催事が中止となるだけでなく、利用団体の活動力が低下していることは、今後の長期的な施設利用状況にも影響を及ぼすと考えられる。 また開館以来の利用者が全体的に高齢化を迎えており、専門業者に展示作業を委託する資金力のない団体からは作業負担を訴える声も多い。適切な施設運営と利用者サービスとの両立を計りながら、ニーズ変化の汲み取りや時代に即したサービス提供が求められる。
		■意見聴取(施設利用者)	随時	実施	—		
	2 施設貸出の考え方	■公平・公正で透明性の高い施設貸出を実施	実施	実施	—		
		■専門性の高いサポート、ホスピタリティを提供	実施	実施	—		
		■新規貸館利用者の創出に向けたインターネット広報を充実	実施	見送り	—		
	3 施設貸出の流れと取り組み	■展示室:1週間単位(火曜日~月曜日、最長2週間まで)で利用受付	実施	実施	—		
		■空き情報を即時ホームページ(以下HP)上で公開のほか、SNS等で従来利用者以外への情報発信を行い、展示室利用率100%の維持に努める。	実施	実施	—		
		■貸館利用チラシを近隣の美術サークル、芸術関係の団体に配布	実施	見送り	—		
		■利用開始前3ヶ月程度で空きが発生している場合、「ギャラリーお試し利用事業(仮)」の実施を検討	年1回	見送り	—		
	4 利用者へのコミュニケーションとサポート	■専門性に基じた 展示構成アドバイス	実施	実施	—		
		■コンシェルジュとして相談に応じる	実施	実施	—		
		■利用団体に対しての広報協力			—		
		・「展示室・アトリエスケジュール」(当館HP)	実施	実施	—		
		・「ヨコハマ・アートナビ」、「マグカル」等への情報提供	実施	実施	—		
		・利用期間中の展示の様子を、HPやSNSで発信	実施	実施	—		
		・情報誌『アートあざみ野』への掲載(年4回)	実施	実施	—		
		・エントランスロビーのラックにチラシ等の配架	実施	実施	—		
	■物品の預かり アトリエ継続的利用団体への備品保管ボックス貸出	実施	実施	—			
	5 文化施設としての専門性を発揮するための人材配置とその育成	■当団体の人材マネジメント・ポリシーを遵守	実施	実施	—		
		■事業担当と施設運営担当について、当団体の人材をバランスを考え配置	実施	実施	—		
■OJT及び各種研修による事業担当職員及び施設運営担当職員の育成		実施	実施	—			

令和2年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価			
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価		
使命6 適切な維持管理を行い、法令を遵守することで、安全で快適な施設を維持する。予防的修繕にも着実に取り組む。	1 施設管理・環境維持・警備等一共有部分について	□センター横浜北、管理委託会社との「管理合同ミーティング」を開催	月3回以上	実施	B	□管理合同ミーティング 毎週火曜日実施(4-5月臨時休館中は2週間に1回) ■法令に基づいた保守点検・測定等業務の基準の通り実施	【成果】 1 施設管理・環境維持・警備等一共有部分について 男女共同参画センター横浜北、建物総合管理担当会社との情報共有を密に図り、日常の営繕・故障対応を行った。 2 施設管理一専有施設について 日常的な職員巡視や定期的な保守点検を計画通りに実施し、維持管理を行った。 3 横浜市所蔵カメラ・写真コレクション(収蔵庫) ・収蔵庫温湿度管理に必須な加湿器について、メーカーでの部品製造終了を受け、加湿器2台の更新工事を横浜市により実施(3/3)。 【課題】 開館後15年を経て、館内設備全般において老朽化による故障が発生しており、保守点検担当会社から機器・設備の更新を推奨されるようになっている。指定管理者対応範囲では、優先順位を確認しながらの予防的修繕を行っているが、小破修繕を超えた設備更新については予算確保が課題である。 専有部に関しては、今後数年間のうちの収蔵庫空調関連の設備更新が迫られている。 ・収蔵庫内の除湿機更新(3台中2台は更新済み、残り1台) ・恒温恒湿パッケージエアコン更新(2台)		
		■法令を遵守し、必要な保守点検や測定の実施	随時	実施	—				
		■全職員による目配りにより、日常的な維持管理に努める	随時	実施	—				
	2 施設管理一専有施設について	展示室						□展示室 計画通り実施 ・壁面の塗装チェック、必要箇所の塗り直し(1/18) ・可動パネルの保守点検(1/18) ・可動パネルの消耗品交換、稼働状況のチェック、壁面の補修(展示入替時随時) ・貸出備品の点検・整備(展示入替時随時) ・高所作業車保守点検(5/29)	
		□展示室壁面の塗装チェック、必要箇所の塗り直し	年1回	1回	B				
		□展示室可動パネルの保守点検	年1回	1回	B				
		■展示室可動パネルの消耗品交換、稼働状況のチェック、壁面の補修	随時	実施	—				
		■展示室貸出備品の点検・整備	随時	実施	—				
		□高所作業車保守点検	年1回	1回	B				
		アトリエ							
		□アトリエ壁面のリタッチ	年1回	1回	B				
		■貸出附带設備・音響設備の点検、整備	随時	実施	—				
		□陶芸用電気窯保守点検	年1回	1回	B				
	□土練機、パネルソー保守点検	年1回	1回	B					
	□その他(搬入口・荷捌室・作品保管庫等)					□その他 業務の基準通り実施 ・衛生設備(新ガス消火設備、連結散水設備等)保守点検(9/24, 3/22) ・昇降機設備保守点検(年12回)			
	□衛生設備(新ガス消火設備、連結散水設備等)保守点検	年2回	2回	B					
	□昇降機設備保守点検	月1回	1回	B					
	3 横浜市所蔵カメラ・写真コレクション(収蔵庫)	収蔵庫内環境の維持							□収蔵庫内 温湿度管理:規定数値以内を維持 □収蔵庫内 ハップインジケータ測定・ケミカルフィルター交換 1回目:6/29-7/1, 2回目:3/11-13 □文化財喰害虫生息調査(年8回) 実施 4/22, 6/49, 7/31, 9/16, 10/27, 12/17, 2/5, 3/10 □定期的な清掃、設備点検 毎月10日、12回実施 □収蔵庫空調関連機器の保守点検: 実施(3/11-13) ■コレクション作品管理、貸出、熟覧、画像提供 熟覧・画像提供:町田市立国際版画美術館(令和3年度開催展覧会「映える風景を探して」に貸出予定あり)
		■通年で温度20℃±2℃、湿度50%±2%を維持	実施	実施	—				
		□pH値を定期的に測定し、結果に応じケミカルフィルター交換	年2回	2回	B				
		□文化財喰害虫生息調査	年8回	8回	B				
□担当学芸員ほか職員による定期的な清掃庫内の機器、設備の点検を実施		月1回	1回	B					
■収蔵庫担当による日々の庫内点検実施		実施	実施	—					
□収蔵庫設備の保守点検		年1回	1回	B					
■コレクション作品管理、貸出、熟覧、画像提供	随時	実施	—						

令和2年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		□年間延べ参加者数		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
使命6 適切な維持管理を行い、法令を遵守することで、安全で快適な施設を維持する。予防的修繕にも着実に取り組む。	4 維持保全・修繕について	■計画的・予防としての修繕 共有部:センター横浜北および設備管理会社と連携 専有部:今後必要となる修繕項目について検討し、1件60万円を超える事業に関してはモニタリング等を通じて設置者に情報共有・相談 ■緊急を要する修繕 速やかに横浜市、関係各所へ連絡・報告を行う。運営に支障がないことを最優先に応急処置を取りつつ、最適な修繕を実施	随時	実施	■計画的・予防としての修繕 共用部:令和元年度劣化調査指摘事項(高圧気中負荷開閉器及びSOG制御装置更新)について実施(1/25) 専有部:※実施した主な修繕は以下の通り。 ・展示室床板割がれ補修 ・展示ガラスケースのクロス貼替 ・パネルソー動作不良修理 ・横浜市実施:収蔵庫加湿器更新工事 ■エントランスの雨漏りなど、特に来館者に影響が出る案件については、センター北から所管課に発生時に報告をし、情報共有のうえ経過観察。	【成果】 4 維持保全・修繕について 建物・設備管理業務を専門業者に委託し、横浜市が策定する手引き・マニュアル・業務の基準等に沿って、専門的な知識に基づいて施設管理を実施。 ・毎週火曜日にセンター北・ギャラリー・設備管理会社と合同ミーティングを行い、細かな不具合や状況を共有。 ・自前で対応可能なものは宮繕を実施 5 事故防止・防火防災・保険・感染症対策等 6 災害時対応—地域に頼られる公共施設として 感染症対策をはじめとした日常対応において両館の連絡を密に行った。 全2回の合同防災訓練では、感染症の影響をテーマに取り入れたタイムリーな訓練を行うことができた。 7 業務計画・報告および評価 問題なく遂行できた。 【課題】 施設の維持保全・修繕については、使命6—1. 2. 3に記載。 次年度以降、地域としての防災能力向上のため近隣の公共施設や商業施設ともネットワークを構築を目指す。	(評価は前ページに記載)	
	5 事故防止・防火防災・保険・感染症対策等	■怪我や急病:来館者の怪我、急病や多目的トイレの緊急呼出等、異常発生の際を受け次第、センター横浜北・ギャラリーあざみ野の職員1名ずつが現場へ急行し対応。救急要請にスムーズに対応できるよう、スタッフの研修実施 <input type="checkbox"/> AEDの設置および操作研修 ■事故発生時:市を含む関係者に速やかに通報し、必要対応と原因調査にあたる。 ■防火防災 センター横浜北、設備管理会社と協働して、アートフォーラム自衛消防隊を組織 <input type="checkbox"/> センター横浜北との合同防災訓練 ■保険:センター横浜北と協議の上、適切な施設賠償保険に加入。作品借用や施設外事業、ボランティアに係る保険等については、個別に適正な保険を契約 ■感染症対策 感染や拡大を防ぐため、マニュアルに基づきスタッフへの対応講習を実施	随時	実施	昨年度末より感染症対策として、各有料施設内での感染防止対策について情報交換を行い、共用部分での感染防止対策については共同で実施。また、フリースペースの利用中止など施設内の運営状況をきめ細かく調整した。 展示室で使用者の不注意によるローリングタワーからの落下という負傷事故の発生があったが、主催とも連携し速やかに救急搬送を行い、次年度以降保険等を適用してアフターケアを行う。 <input type="checkbox"/> 合同防災訓練を年2回実施。 ・1回目:感染症拡大を鑑みて、体調不良の来館者(コロナ陽性者かもしれないという想定)の初期対応、消防への通報訓練を実施。ロールプレイングにより研修。 ・2回目:通常の火災消火・通報・避難誘導訓練に加え、「帰宅困難者一時滞在施設」としてコロナ禍における避難所運営の課題や、男女ニーズの違いによる避難所運営ポイントなどを動画視聴・意見交換により研修。			
	6 災害時対応—地域に頼られる公共施設として	<input type="checkbox"/> 帰宅困難者一時滞在施設対応訓練 ■日常的なネットワークを構築し、地区全体での防災力強化に努める ■所管の飲料自動販売機に災害用ベンダーを導入し、災害時に活用	年1回	1回	B			<input type="checkbox"/> 帰宅困難者一時滞在施設対応訓練 合同防災訓練内で実施(3/16) ■あざみ野駅の帰宅困難者一時滞在施設である山内地区センターへ、次年度以降の訓練の相互見学や合同訓練の実施を提案。
	7 業務計画・報告および評価	■事業計画書・事業報告書の作成・提出 ■日報・月報の作成、月間業務報告 ■業務評価(自己評価)を実施	実施	実施	B			臨時休館となった4月については、毎月のモニタリング報告を书面提出にて実施。

令和2年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価	
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
施設運営及び組織運営	1 専門職員、管理・運営職員ともに適切な人材を配置	■人材配置 館長:1人、副館長:1人、職員:8人、 臨時職員:3~5人	実施	実施	■人材配置 計画通り実施。 ■勤務体制 臨時休館及び緊急事態宣言における館運営状況に合わせて、勤務体制をフレキシブルに調整。	【成果】 感染症の対応を含め、メンバー間・組織間の情報共有を密に行い、職員シフトも偏りのないように組むことで責任体制に途切れのないよう運営を行った。	【評価できる点】 ・適切な人材の配置、効率的な勤務体制の実行により、安定した施設運営が継続された点を評価します。 【更なる取組を求める点】
	2 適切かつ効果的な勤務体制を確立	■勤務体制 基本:早番(8:45-17:30)2名 運番(12:30-21:15もしくは、11:00-19:45)2名 ※全職員によるローテーション制 ■緊閑に応じて柔軟なシフトを組み、職員のワークライフバランスに合わせた勤務と効率的な運営を両立させ、良質な利用者サービスを提供します	実施	実施			
	3 切れ目のない責任体制の維持	■館長・副館長不在時の代行者を明確にし、責任体制を維持します。	実施	実施			
必要人材の配置及び能力担保	1 専門職員、管理・運営職員ともに適切な人材を配置	■館長・事業責任者:当団体や民間で文化事業や施設運営について十分な経験を有し、芸術分野全般への理解があり、マネジメント能力の高いベテラン職員を配置	実施	実施	計画通り実施	【課題】 当財団の人事異動に際しては、確実に引継ぎを行い、施設運営・事業実施に支障なく、利用者へのサービスも維持できるように努める。	
		■副館長・管理運営責任者:連絡・調整をはじめとする施設を管理・運営するための基礎的な業務能力を有し、当団体や民間での文化事業や施設運営の経験を有する職員を配置	実施	実施			
		■事業系及びコレクション担当:美術に関する専門教育を修め、学芸員の資格を有する職員または鑑賞・造形教育エデュケーター、もしくは両者を志望する職員を配置 ※特にコレクション担当には、写真・映像を専門とする学芸員を配置。	実施	実施			
		■施設運営系担当:当団体が保有する豊富な専門人材の中から、中堅と若手をバランス良く配置。	実施	実施			
横浜市の重要施策を踏まえた対応	1 適正な個人情報保護・情報公開	■個人情報は規程及びマニュアルに基づき適切に取り扱います。	実施	実施	■個人情報保護 横浜市の規程および財団のマニュアル通り実施 ■ゴミ分別、排出量抑制 感染症の影響による稼働率低下により月平均の排出量は前年度263kg→136kgとなった。 ■電気、ガス使用量 稼働率低下のなか換気強化対応が求められたため、電気は前年度比78%、ガスは109%となった。		
	2 人権尊重	■すべての人に開かれた施設として公平・公正な施設運営のため、人権尊重の取組みを大切にします。	実施	実施			
	3 環境への配慮	■ゴミを適切に分別、排出量を抑制 ゴミの持帰り原則を徹底し、処分引き受けは有料とする ■電気とガスの使用量を前年度並みに抑制します。	実施	実施			
	4 市内中小企業への優先発注	■物品購入、委託 アーティスト指定、市外業者のみの業務を除き市内業者に発注	実施	実施			

令和2年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画			実施状況		評価	
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
事故防止策・緊急時(防犯)の対応、防災に対する取組	1	アートフォーラムでは、全職員(横浜市民ギャラリーあざみ野、センター横浜北、管理委託会社)が、日常的に危険箇所や不審者等を早期に発見し、対処します。	■これまで蓄積してきた各種マニュアルを常に見直し、新たな危機の想定など、必要に応じた更新・改訂をしていきます	随時	実施	<input type="checkbox"/> 計画通り実施 <input type="checkbox"/> 合同防災訓練 <input type="checkbox"/> 帰宅困難者一時滞在施設対応訓練 使命6-5.6に記載	(評価は使命6に記載)	(評価は前ページに記載)
	2	緊急時には「利用者の安全第一」と「迅速さ」を基本方針として対応します	■安全管理マニュアルを見直し、必要に応じて更新します。 ■常に全職員がマニュアルを理解するように定期的確認行動を図り、危機の際には「アートフォーラムあざみ野」全職員が一斉して対応します。	実施	実施			
	3	防災の取組みとして、自館の防災はもちろん近隣の防災拠点としての役割も担います。	<input type="checkbox"/> センター横浜北との合同防災訓練 実施回数 <input type="checkbox"/> 帰宅困難者一時滞在施設対応訓練 実施回数	年2回	実施			
年1回			実施	B				
Ⅳ収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 利用料金設定及び割引、減免の考え方	展示室・アトリエともに、現在の利用区分(単位)・料金が定着しているため、従来の設定を踏襲します。	■従来の料金体系に沿った利用料金設定を継続	実施	実施	<input type="checkbox"/> 横浜市主催事業 50%減免:実施なし <input type="checkbox"/> 横浜市共催、実行委員会参加事業 30%減免: 神奈川県高等学校写真連盟主催・横浜市共催「第47回高校生写真展」(12/22~27) <input type="checkbox"/> アトリエ利用における、夜間割引や学生割引の導入	【成果】 今年度当初より、感染症の影響と4-5月の臨時閉館等により、利用料金収入・負担金収入(駐車場利用料金収入)が大幅に落ち込むことが想定された。同時に自主事業も4-6月は実施ができなくなったが、感染症対策を図ったうえで7月以降事業を再開。事業の手法を感染対策・経費のかけ方とも大きく見直すとともに、貸館利用の成立も追求し活動を止めないことを主眼に運営を行った。結果的にコロナ禍で可能な限り最大限の活動を行い、成果を挙げることができた。	【評価できる点】 ・自主事業の企画にあたっては、内容を充実させるため、各種助成金の獲得に努めた点を評価します。 【更なる取組を求める点】 ・今後も質の高い自主事業を展開を持続するために、収支バランスにも配慮した企画立案を行ってください	
		■横浜市主催事業:50%減免	実施	実施				
		■横浜市共催もしくは実行委員会に参加する事業:30%減免	実施	実施				
		■ギャラリーあざみ野共催及び協力事業:主催者との協議により30~100%減免	実施	実施				
2	割引、減免制度については、横浜市民ギャラリー条例・同施行規則に従って運用します。	■アトリエ利用における、夜間割引や学生割引の導入	実施	実施				
2 指定管理料にのみ依存しない収入構造	自主事業の一部については、指定管理料を充当せずに行います。	□収支ゼロ若しくは黒字で行う自主事業	年間100万円以上	着衣クローカー 約22万	<input type="checkbox"/> 収支ゼロ若しくは黒字で行う自主事業 着衣クローカー 22万円 <input type="checkbox"/> 利用料金収入(施設・駐車場) 施設利用料 4,447,290円 駐車場利用料 2,171,550円 <input type="checkbox"/> 外部資金の獲得 助成金1件(野村財団) 500,000円 「アートあざみ野」広告掲載料 135,000円	【課題】 長引くコロナ禍で次年度以降での利用率低下は避けられないと思われる。また全館的な来場者減のため駐車場利用料や雑収入も回復が見込めず、事業実施における工夫や外部資金獲得の努力が必至である。		
		□利用料金収入(施設・駐車場)	年間1,290万円以上	利用率:4,447,290円 駐車場:2,171,550円 合計:6,618,840円				
		□助成金 申請件数	3件以上	4件実施				
3	助成金・協賛金、現物協賛の獲得	□助成金・協賛金・広告料とあわせて外部資金を獲得	100万円以上	635,000円	C			
3 経費削減等効率的運営の努力	4 経費削減・効率的運営の努力	■センター横浜北と協力し、施設管理委託費を抑制	前年度並みに抑制	実施				
Ⅵ PDCAサイクルの確実な運用	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1	PDCAサイクルの基本指標となる日報、月報の作成・管理を確実に実行します	□業務日報の作成	毎日	実施	<input type="checkbox"/> 計画通り実施(使命6に記載)	(評価は使命6に記載)	(評価は前ページに記載)	
		□管理運営月報・完了確認書を作成し、モニタリングにおいて報告	月1回	実施				
		■事業計画書・事業報告書の作成	実施	実施				
2	事業計画書・事業報告書の作成・管理を行います	■事業計画に沿って成果が見える報告書を作成	実施	実施				
3	業務評価を実施します	■自己評価(仮決算含む)	年2回	実施				
Ⅶ その他	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1	市民の生命と安全を守ることを第一義として、適切な保険に加入し、万が一に備えます。	■設賠償保険はセンター横浜北が契約し費用については応分負担	実施	実施	<input type="checkbox"/> 計画通り実施(使命6に記載)	(評価は使命6に記載)	(評価は前ページに記載)	
		■作品借用や施設外事業、ボランティアに係る保険契約については、個別に契約し、賠償請求について対応	実施	実施				
		■現行の関係法令を順守するとともに、法令改正に気を配り、契約等の前に確認	実施	実施				
2	関係法令を順守し、公的機関としての役割を果たします。	■現行の関係法令を順守するとともに、法令改正に気を配り、契約等の前に確認	実施	実施				
3	よりよい市民サービスの提供を目指し、市及び関係機関との連絡調整を行います	■事故や不具合時は即日報告とし、随時共有	実施	実施				